

23日に開幕する春の岡山県高校野球大会（山陽新聞社後援）の組み合わせ抽選会は20日、倉敷市であり、対戦カードが別表の通り決まった。昨秋の県大会8強（シード校）と東部、西部、北部の各地区予選を突破した計24校が5月3日まで倉敷市のマスカットスタジアムを主会場に熱戦を繰り広げる。

本命不在の今大会。優勝争いは、春のセンバツに出場した倉敷工、昨秋の中国大会に進出した学芸館と創志学園、打力の高い倉敷商の4校が軸で地力のある岡山東商や山陽が追う。組み合わせは有力校が比較的バランス良く散らばった。

ともに1回戦から登場の倉敷商と山陽が入ったゾーンが最激戦区だ。倉敷商は昨夏の甲子園に出場した雄龍、西川、藤森らミート力とパワーを備えた強打者が並び、山陽も地区予選で本塁打を放った



抽選会を引っ張る尾崎司将  
倉敷市

# 本命不在 倉敷工などV争い軸

## 春の岡山県高校野球 23日開幕



組み合わせ

[注] 太字はシード校。マはマスカット、倉は倉敷市営、工は美咲・エイコンの各球場

伊藤永や徳永ら長距離砲が目玉。それぞれ初戦を突破すれば、大会屈指の右腕の速球派田本と西村を擁する理大付、右腕金川を中心に堅守の玉野商工と相まみえる。

昨秋覇者の倉敷工は藤井、福島ら上位打線が強力。直曲球に切れがある右腕高山はスタミナ豊富でバックも安定している。対抗馬は攻守にそのない玉島商、多彩な攻撃が持ち味の光南あたりか。秋を含め県大会初出場の翠松と一昨年の1年生大会優秀校の西大寺の1回戦にも注目したい。

学芸館も岡山東商のゾーンは両チームが有力。学芸館は投手力と守備力に優れ、岡田景と大橋の左右の二枚看板は球威がアップした。昨秋4位の岡山東商ナインはオフのトレーニングで体がたくましくなり、小島、光森がけん引する打力で勝る。（田井香菜子）

負。下級生の多い就実には勢いがあり、作陽は投打にまとまる。

創志学園は関西のゾーンは昨秋3位の創志学園が頭一つ抜ける。右横手から速球を繰り出す主戦岡村を軸に守りは堅実で、主砲金田が引っ張る打線も切れ目が無い。興誠は右の本格派戸川ら投手の駒がそろい、初戦は好左腕猪坂がいる明誠学院との投手戦になりそう。勝者は守備からリズムをつくる関西とぶつかる。

ベスト8進出校は夏の岡山大会のシード権を獲得。優勝校は中国大会（6月4、5、7日・島根）に出場する。

新型コロナウイルスの感染対策を徹底した上で、3年ぶりに1回戦から一般の観客を入れて開催する。開会式は23日午前8時半からマスカットスタジアムであり、大安寺の川上稀大主将が選手宣誓する。（田井香菜子）